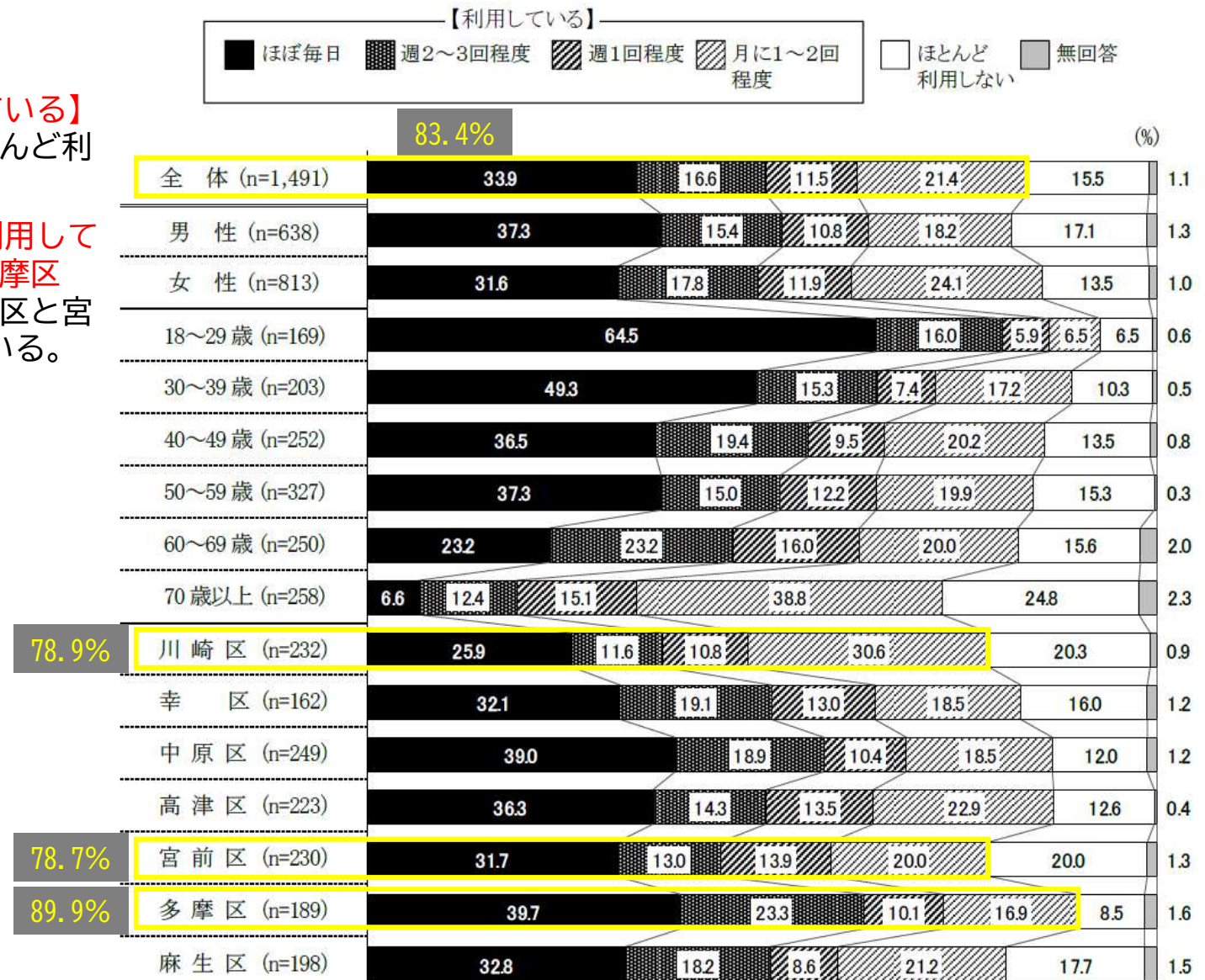


■令和5（2023）年度 第2回かわさき市民アンケート 実施概要

調査の地域	川崎市全域
調査の対象者	川崎市在住の満18歳以上の個人
標本の抽出方法	住民基本台帳からの層化無作為抽出
標本数	3,000標本(令和5(2023)年9月抽出)
有効回収数	1,491（有効回収率：49.7%）
調査方法	郵送調査(郵送配布・郵送回収)
調査期間	令和5(2023)年10月31日(火)～12月8日(金)
調査テーマ	(1) 定住状況について (2) 生活環境の評価について (3) 関心ごとと行動範囲について (4) 市政に対する評価と要望について (5) 川崎市の都市交通について (6) 川崎市が発行する説明資料・広報等の新しい体裁について (7) 新型コロナウイルス感染症について

市民の鉄道の利用頻度

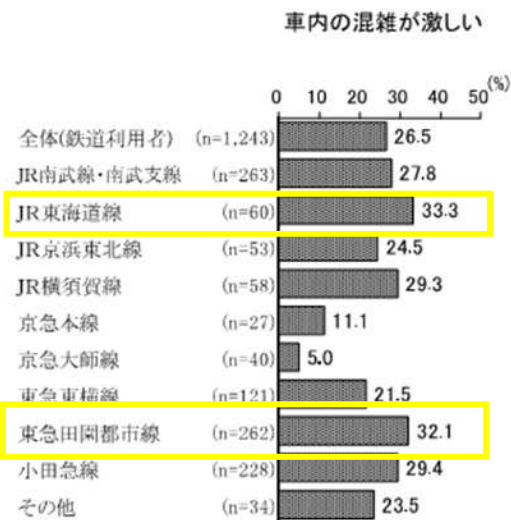
- ・市全体では、【利用している】の割合は83.4%で「ほとんど利用しない」は15.5%。
- ・居住区別に見ると、【利用している】が最も高いのは多摩区(89.9%)で、一方川崎区と宮前区では8割を下回っている。



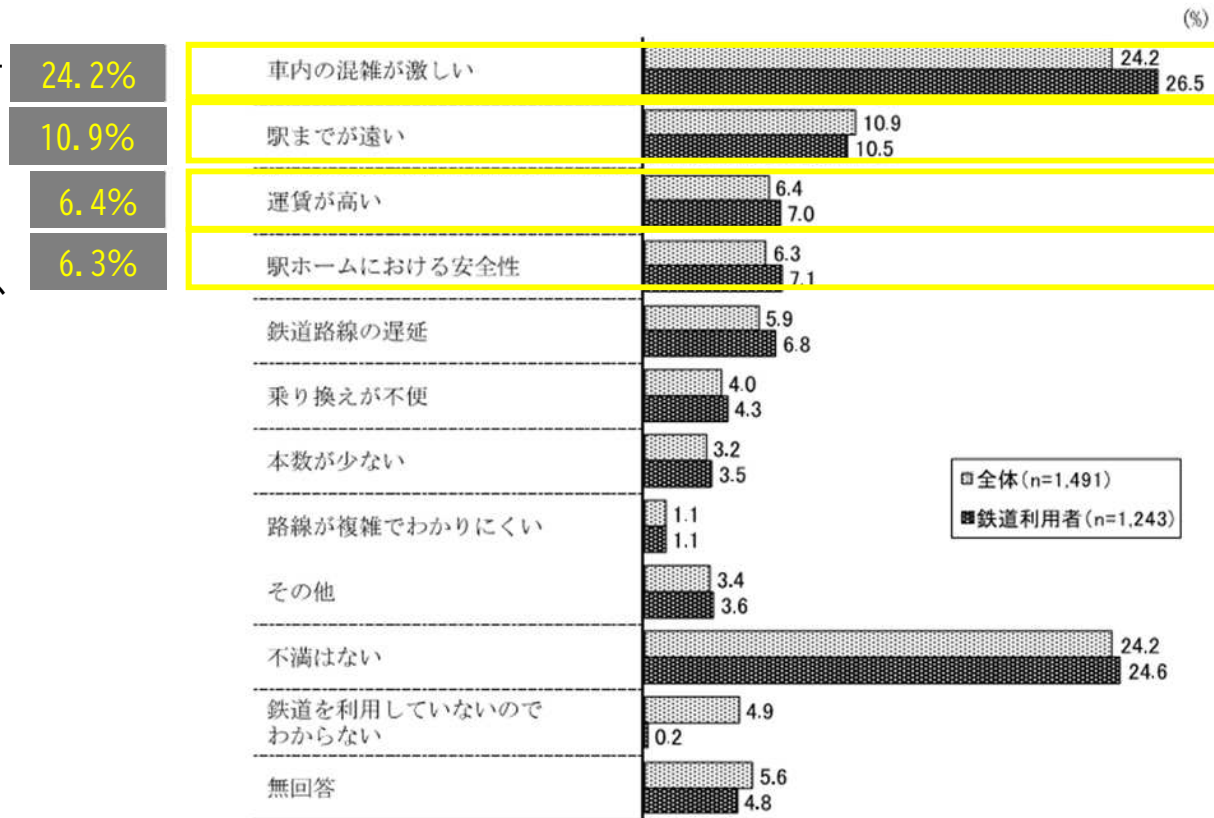
市民の鉄道の利用において最も不満に感じている点

- ・市全体では、「車内の混雑が激しい」が24.2%と最も高く、次いで、「駅まで遠い」が10.9%、「運賃が高い」6.4%、「駅ホームにおける安全性」6.3%と続いている。

- ・「車内の混雑が激しい」のうち、JR東海道線（33.3%）、と東急田園都市線（32.2%）利用者が3割を超えて比較的高い。



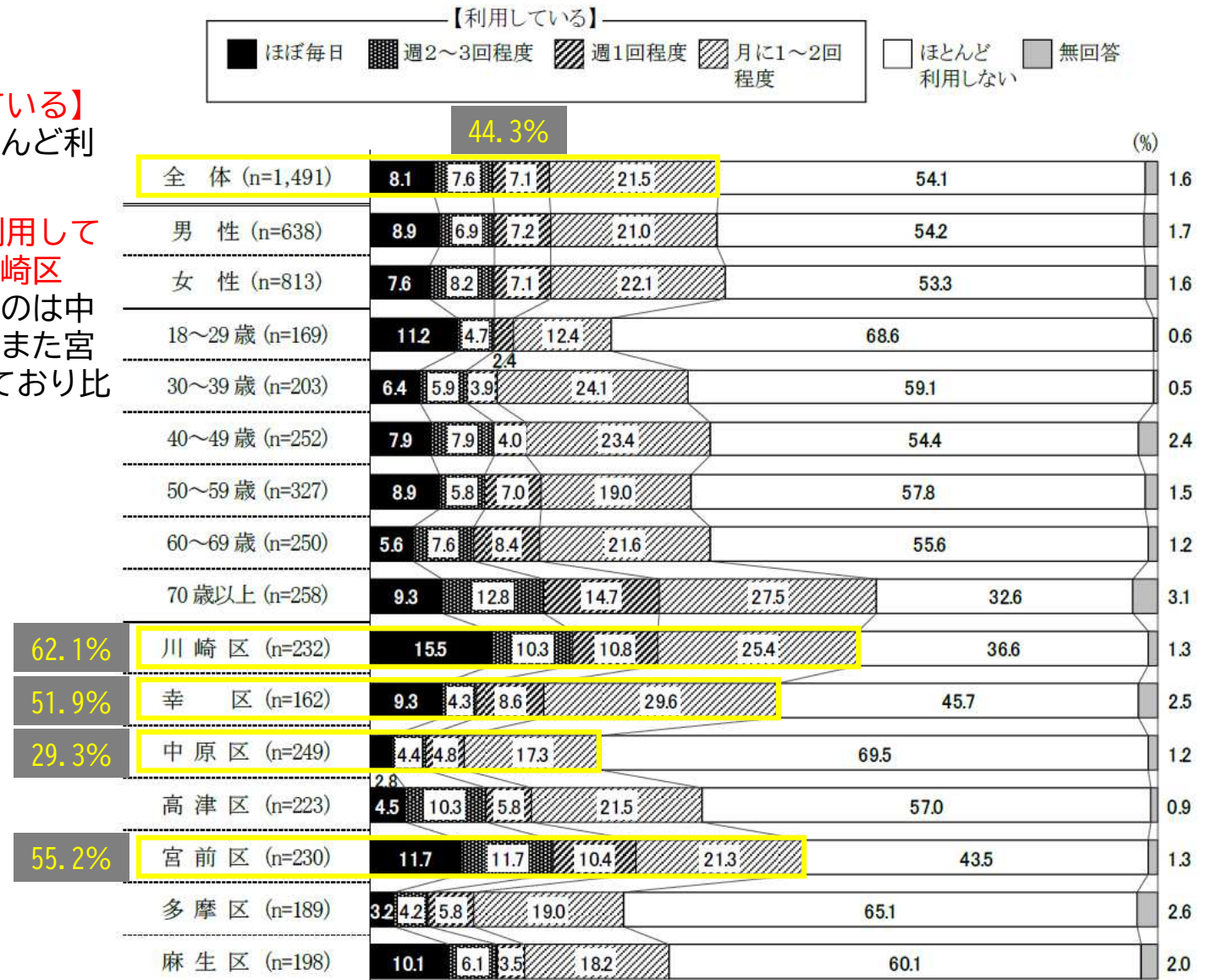
【図表 122】市内の鉄道利用において最も不満に感じる点



コロナ禍を契機として鉄道混雑率は、低下しているものの、「車内の混雑が激しい」最も高い状況にあり、引き続き注視が必要である。

市民の市内の路線バスの利用頻度

- ・市全体では、【利用している】の割合は44.3%で「ほとんど利用しない」は54.1%。
- ・居住区別に見ると、【利用している】が最も高いのは川崎区（62.1%）で、最も低いのは中原区（29.3%）である。また宮前区と幸区は5割を超えており比較的利用頻度が高い。

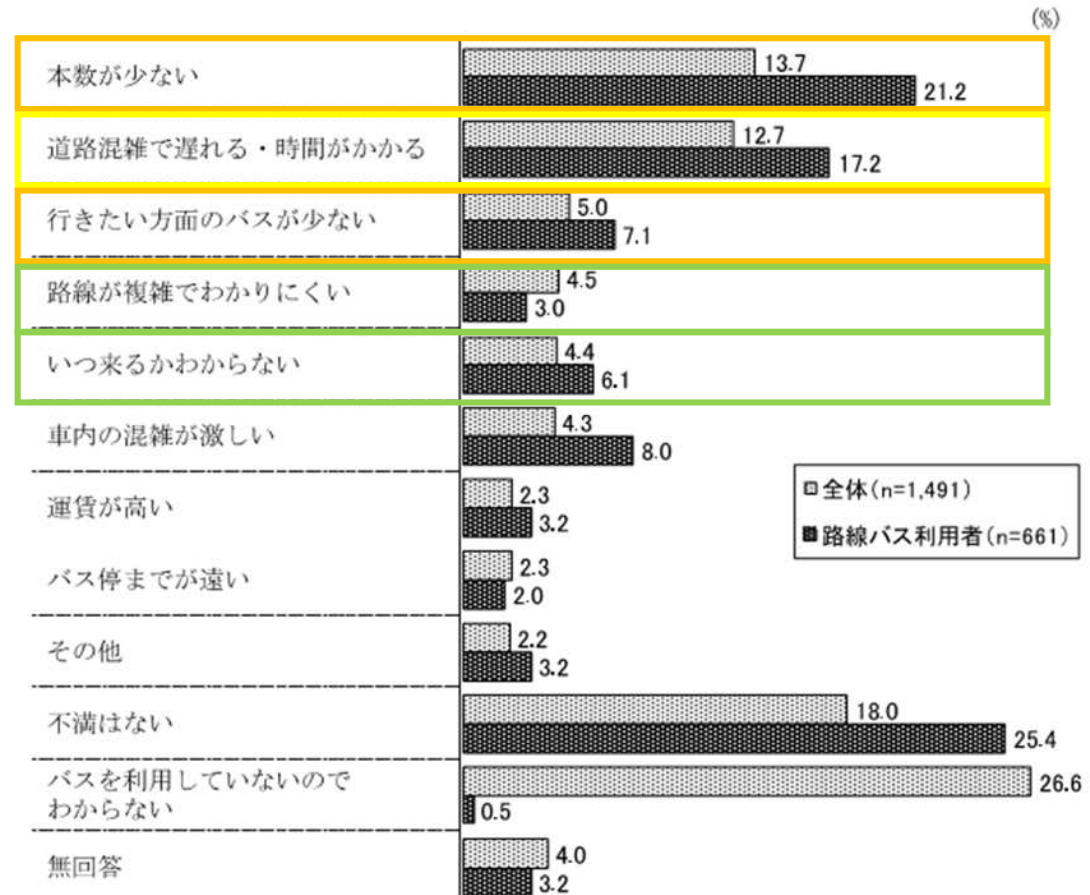


市内の路線バス利用において最も不満に感じること

【図表 131】 市内の路線バス利用において最も不満に感じること

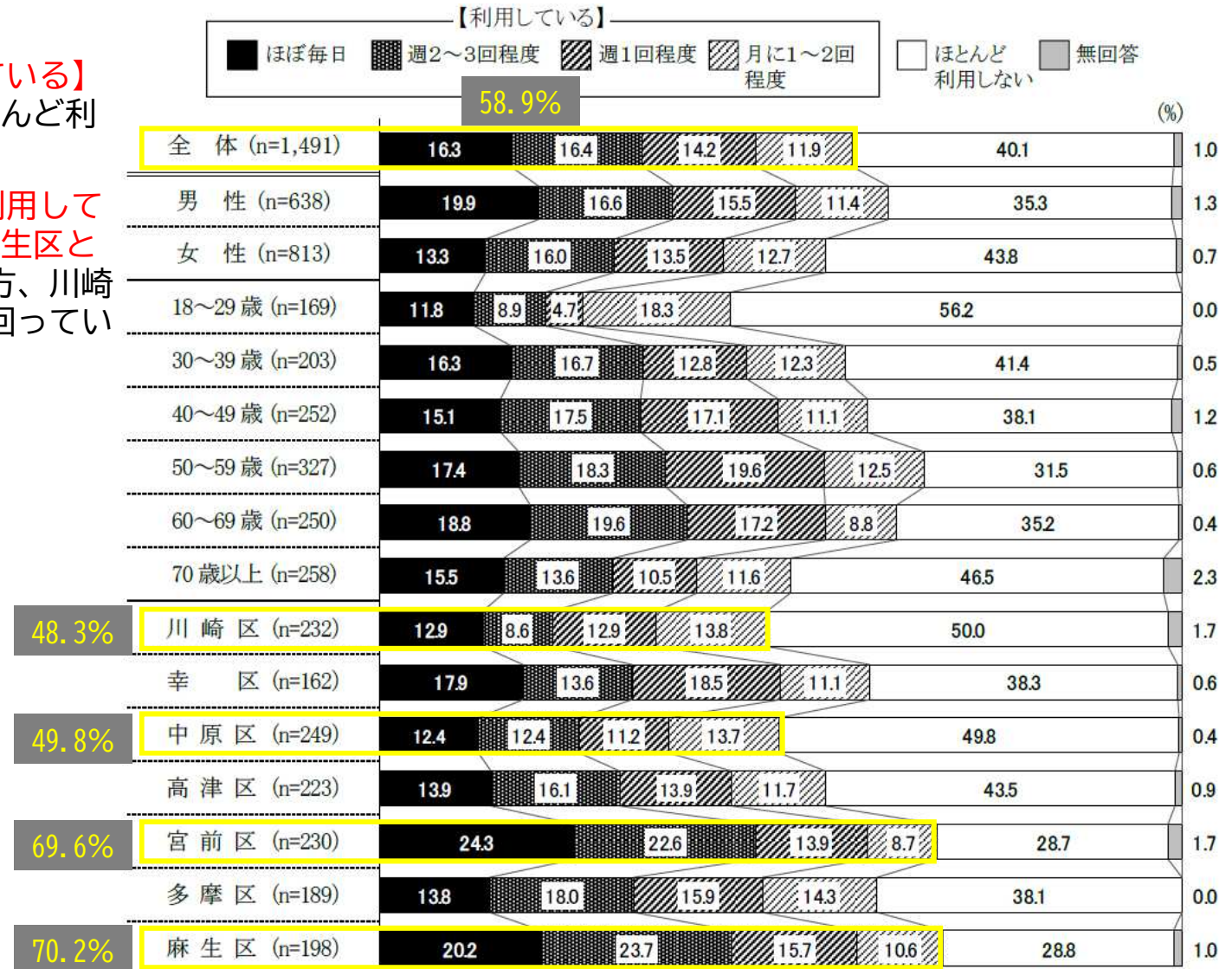
- ・【本数が少ない】の割合は13.7%で最も高く、
【行きたい方面のバスが少ない】の割合は5.0%
- ・次いで、【道路混雑で遅れる・時間がかかる】の割合は12.7%
- ・【路線が複雑でわかりにくい】の割合は4.5%、【いつ来るかわからない】の割合は4.4%

- ・バスの本数や行きたい方面のバスが少ないことの不満
 - ・バスの定時性への不満
 - ・バスの運行情報に関する不満
- ⇒以上の課題への対応が求められている。



市民の自動車の利用頻度

- ・市全体では、【利用している】の割合は58.9%で「ほとんど利用しない」は40.1%。
- ・居住区別に見ると、【利用している】が特に高いのは麻生区と宮前区で約7割である一方、川崎区と中原区では5割を下回っている。



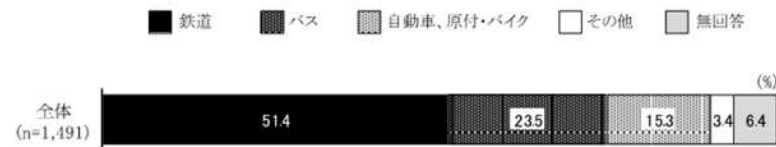
今よりアクセスが向上すると良いと思う場所（全体）

- ・川崎駅周辺が12.4%と最も高い、新百合ヶ丘駅周辺8.8%、武蔵小杉駅周辺8.5%において、アクセスの向上が求められている。
- ・横浜駅・新横浜駅周辺、東京都心方面へのアクセスの向上を求めるニーズが10.9%、10.3%と上位を占める。また、羽田空港は、8.0%にアクセス向上が求められている。

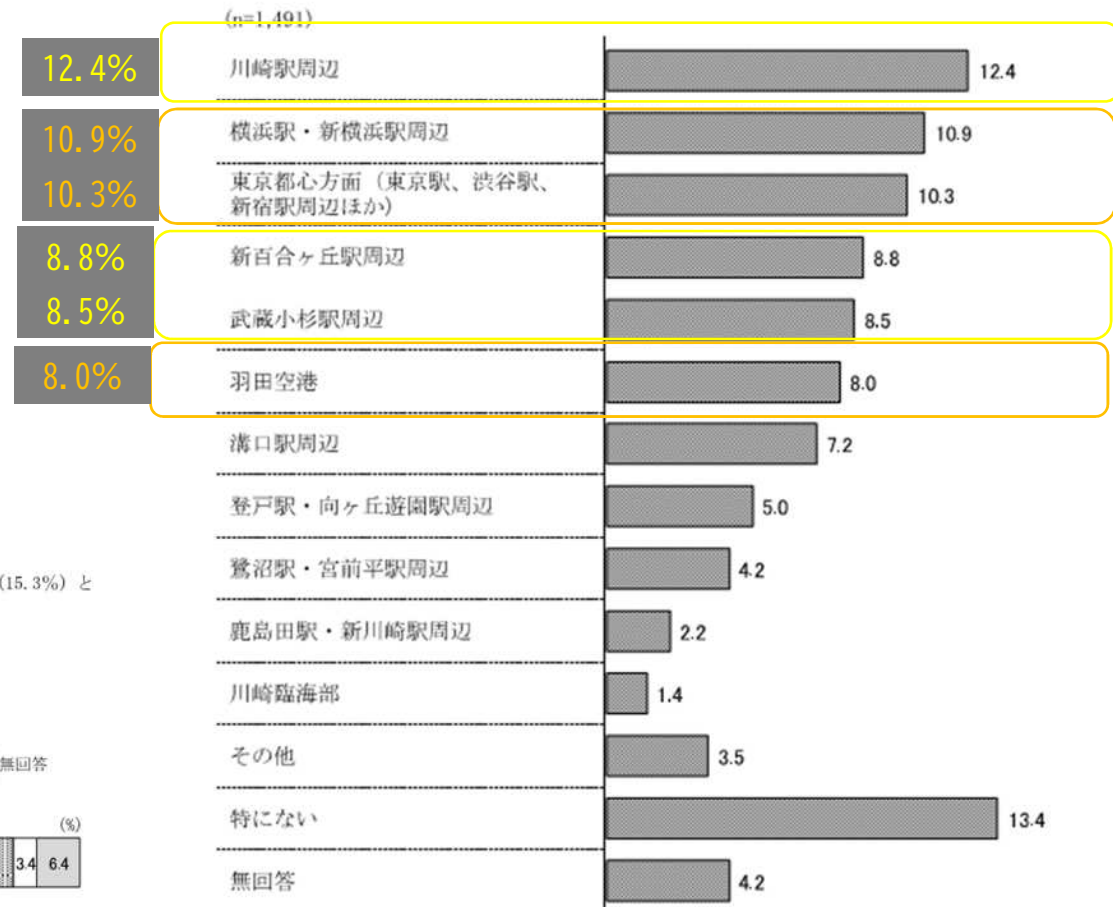
① 普段利用する交通手段

「鉄道」が51.4%と最も高く、次いで「バス」（23.5%）、「自動車、原付・バイク」（15.3%）と続いている。

【図表 141】 普段利用する交通手段



【図表 142】 今よりもアクセスが向上すると良いと思う場所



今よりアクセスが向上すると良いと思う場所（居住区別）

居住区別に見ると、

川崎区と幸区では、

「川崎駅周辺」が最も高く、

中原区では、

「武蔵小杉駅周辺」が最も高く、

高津区では、

「溝口駅周辺」

宮前区では、

「鷺沼駅・宮前平駅周辺」

多摩区では、

「登戸駅・向ヶ丘遊園駅周辺」

が最も高くなっている。

麻生区では、

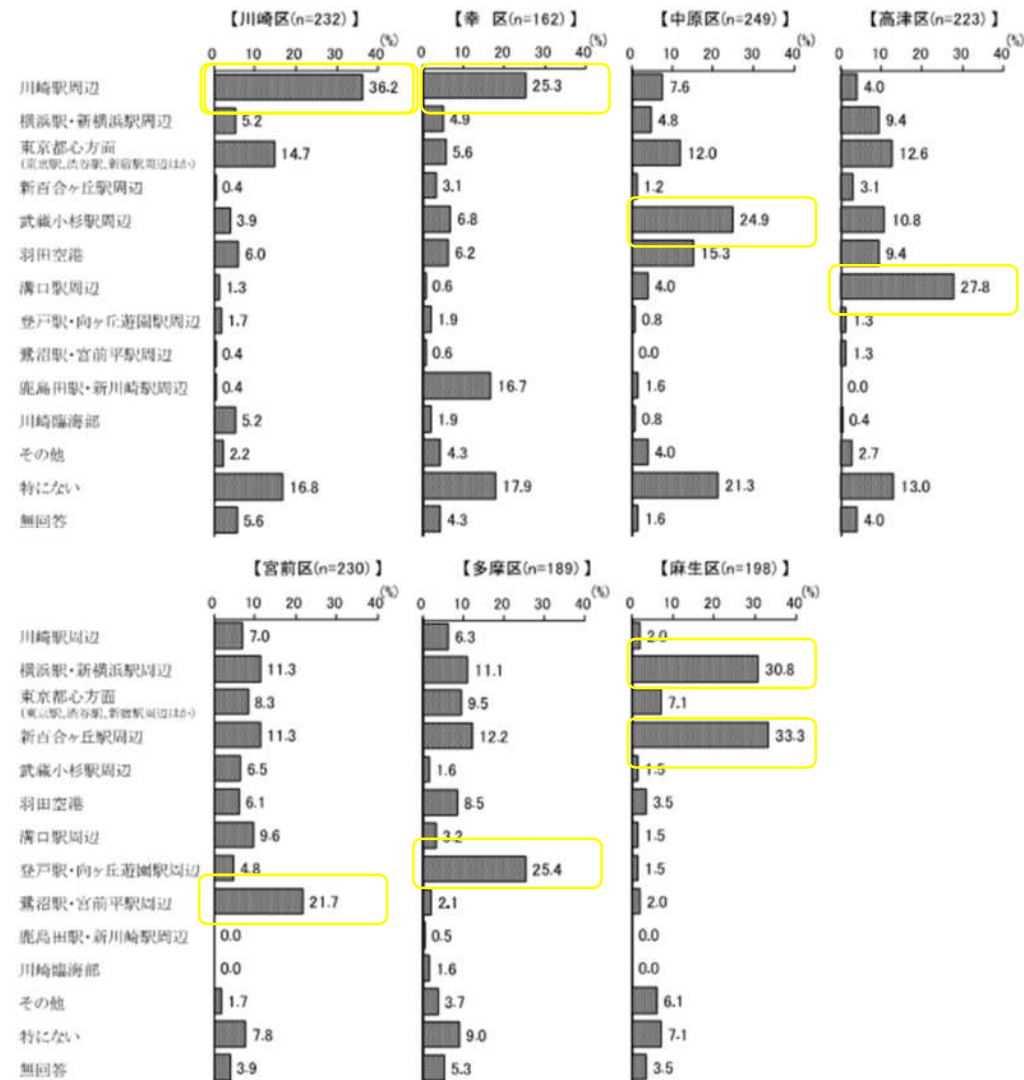
「新百合ヶ丘駅周辺」と

「新横浜駅・新横浜駅周辺」

がともに3割を超えて高い。

広域拠点、地域生活拠点等となる
駅周辺へのアクセス向上が求めら
れている。

【図表 143】今よりもアクセスが向上すると良いと思う場所（居住区別）



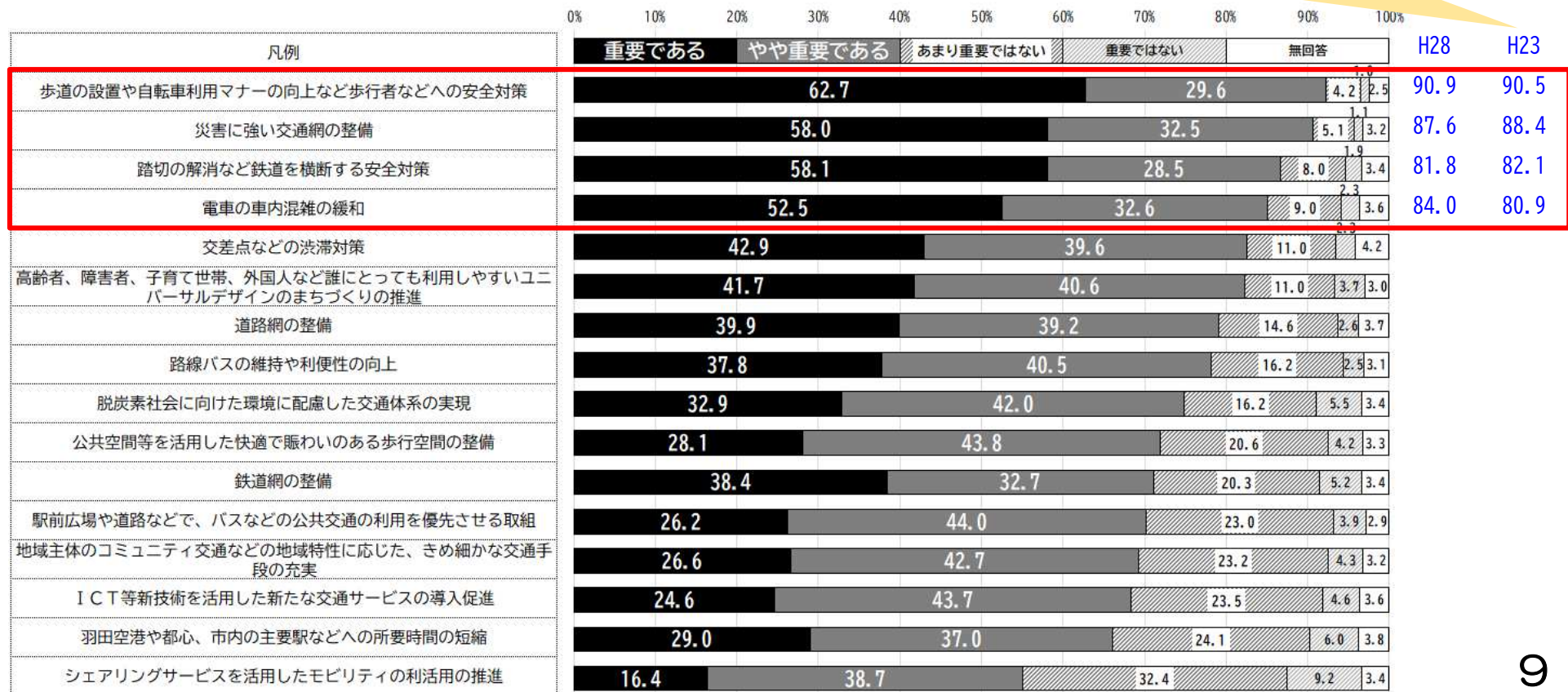
市民アンケート結果（市民が重要と考える市の交通政策）について

市の交通政策について市民が重要と考えるもの（※）は、「歩道の設置や自転車利用マナーの向上など歩行者などへの安全対策」（92.3%）、「災害に強い交通網の整備」（90.5%）、「踏切の解消など鉄道を横断する安全対策」（86.7%）、「電車の車内混雑の緩和」（85.1%）の順。なお、この4項目は「重要である」と回答した市民の割合が50%を超えている。

※「重要である」「やや重要である」の合計回答割合（文章カッコ内の数値）に基づく

質問「あなたは、今後の交通政策において、次の(1)～(16)の取組についてそれぞれの程度重要だと考えますか。

過去実施のアンケートでの「重要である」の回答割合(%)。「-」は当時はなかった項目

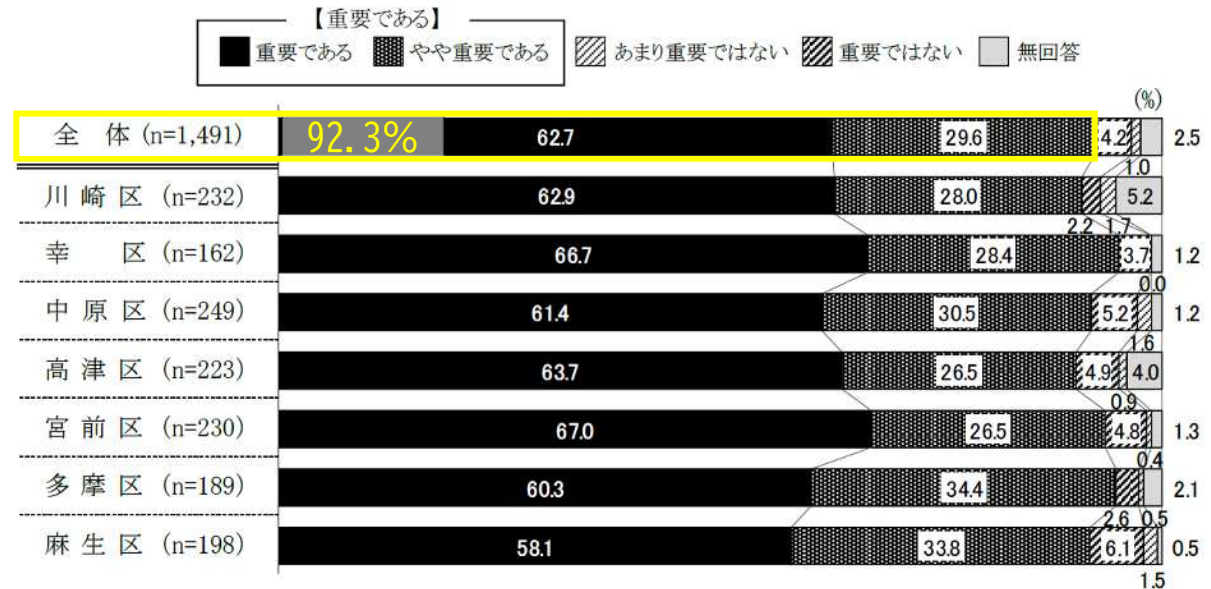


市民が重要と考える市の交通政策（居住区別結果）その1

各交通政策について、重要と考える市民の割合が居住区別に異なるかを確認する。

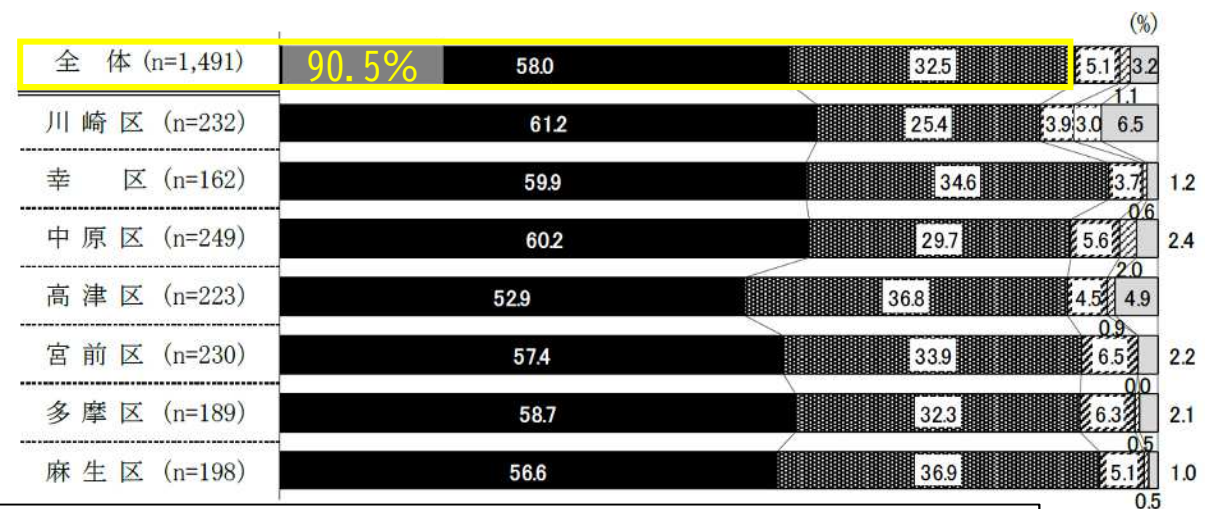
①歩道の設置や自転車利用マナーの向上など歩行者などへの安全対策

- ・市全体では、【重要である】の割合は92.3%。
- ・居住区別に見ると、【重要である】は全ての区で9割を超えている。



②災害に強い交通網の整備

- ・市全体では、【重要である】の割合は90.5%。
- ・居住区別に見ると、【重要である】は川崎区・高津区を除いた5つの区において9割を超えている。

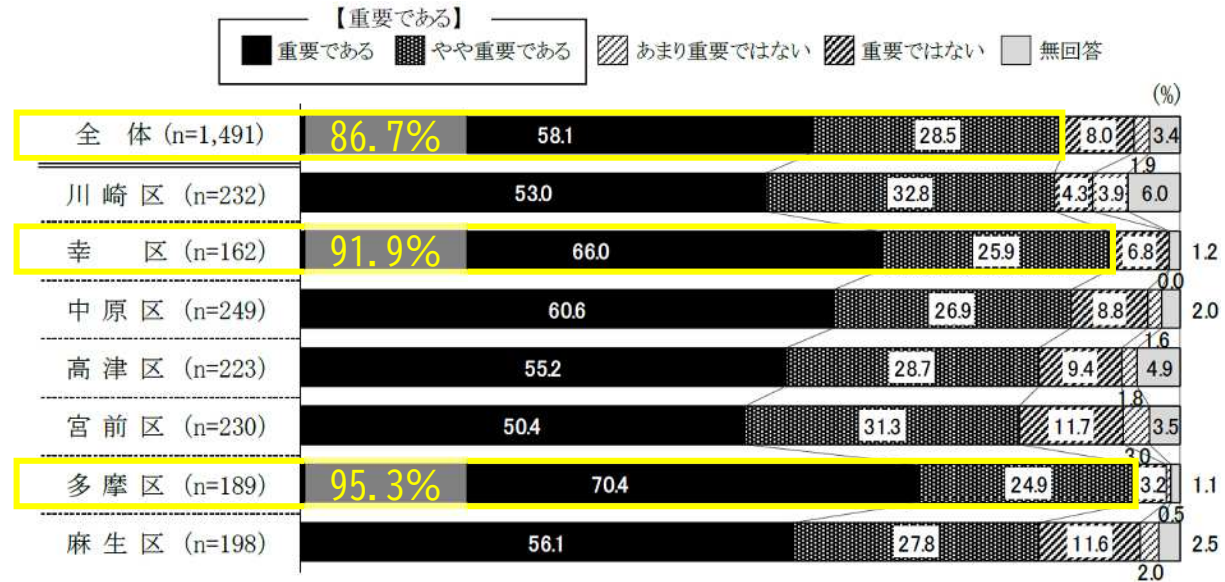


※交通施策の番号（①②③…）は、【重要である】の割合が高い政策から順に付番したもの。

市民が重要と考える市の交通政策（居住区別結果） その2

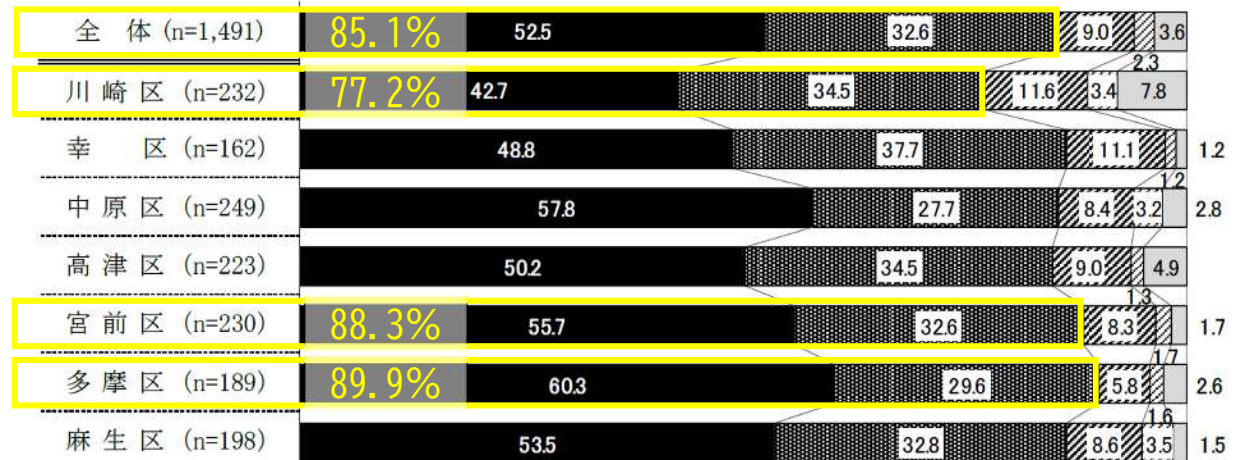
③踏切の解消など鉄道を横断する安全対策

- 市全体では、【重要である】の割合は86.7%。
- 居住区別に見ると、【重要である】はJR南武線等の踏切が存在する多摩区・幸区で特に高く9割を超えている。



④電車の車内混雑の緩和

- 市全体では、【重要である】の割合は85.1%。
- 居住区別に見ると、【重要である】は多摩区・宮前区が9割近くと特に高く、最も低い川崎区より10%ポイント以上高い。

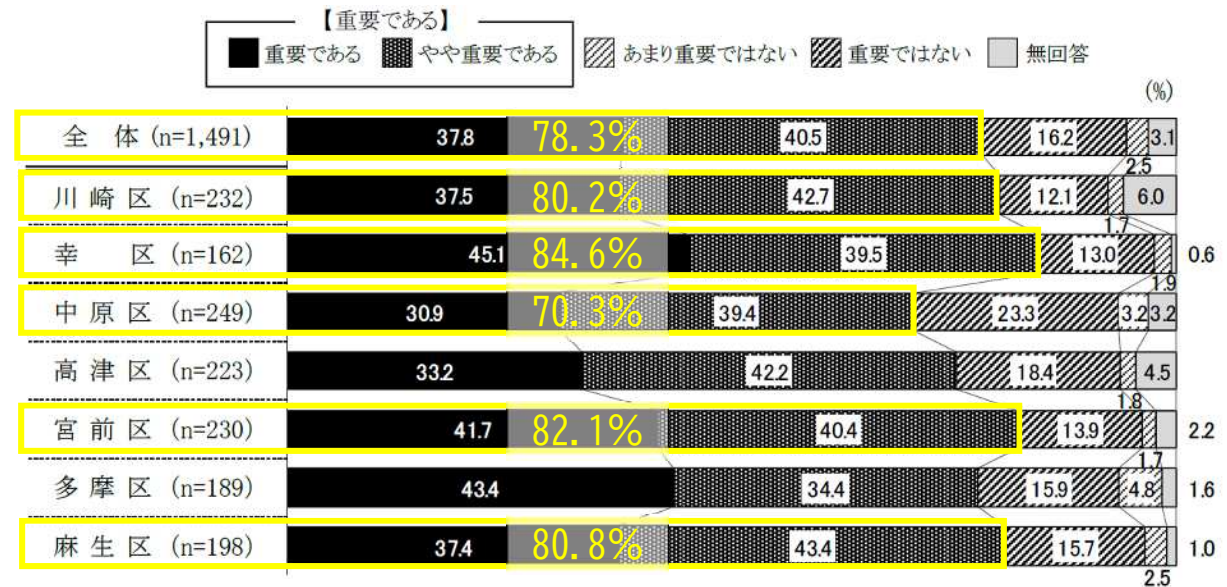


※交通施策の番号（①②③…）は、【重要である】の割合が高い政策から順に付番したもの。

市民が重要と考える市の交通政策（居住区別結果） その3

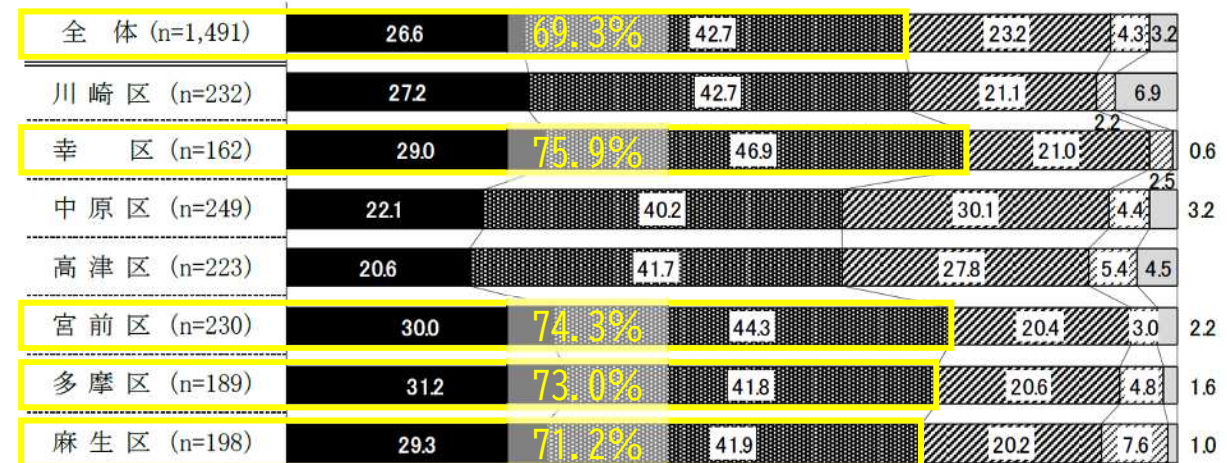
⑧路線バスの維持や利便性の向上

- ・市全体では、【重要である】の割合は78.3%。
- ・居住区別に見ると、【重要である】はバス分担率の高い地域が存在する幸区・宮前区・麻生区・川崎区では8割を超えており、最も低い中原区より10%ポイント以上高い。



⑬地域主体のコミュニティ交通などの地域特性に応じた、きめ細かな交通手段の充実

- ・市全体では、【重要である】の割合は69.3%。
- ・居住区別に見ると、【重要である】は幸区・宮前区・多摩区・麻生区が7割を超えている。

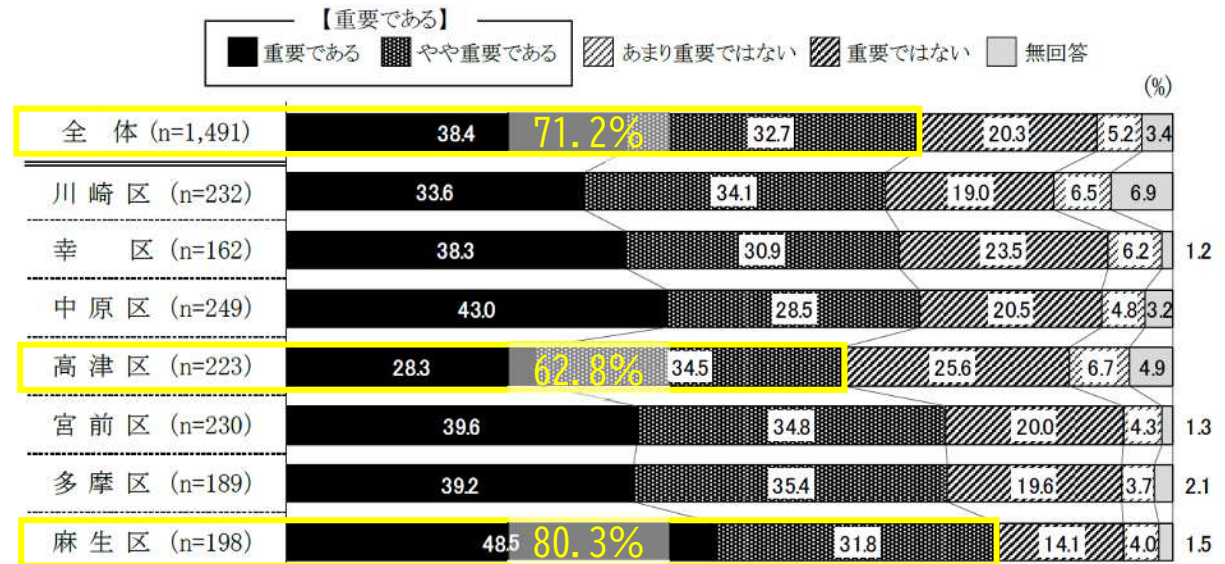


※交通施策の番号（①②③…）は、【重要である】の割合が高い政策から順に付番したものの。

市民が重要と考える市の交通政策（居住区別結果） その4

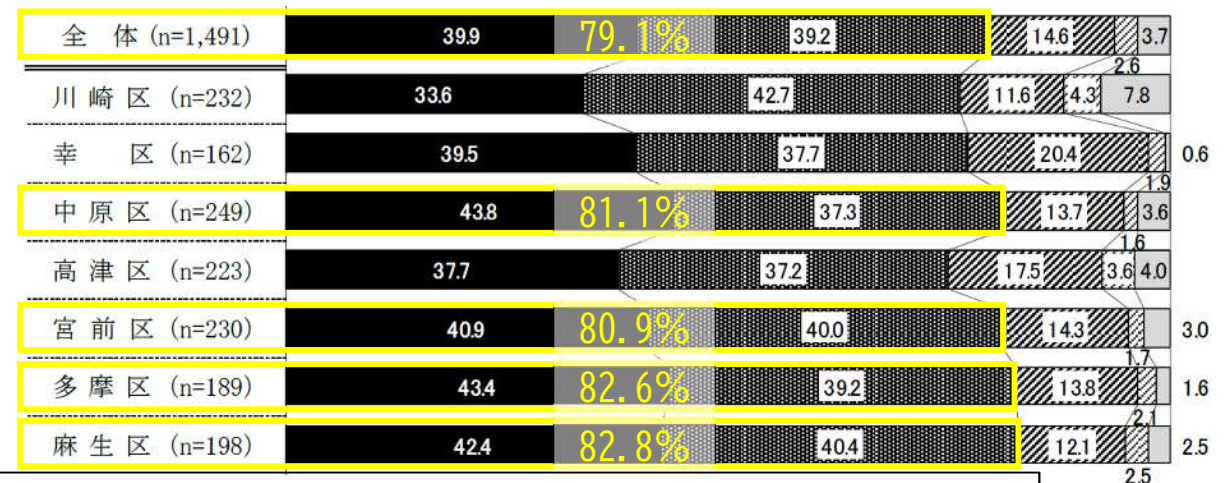
⑪鉄道網の整備

- 市全体では、【重要である】の割合は71.2%。
- 居住区別に見ると、【重要である】が最も高いのは麻生区で80.3%であり、最も低い高津区（62.8%）と17.5%ポイントの差がある。横浜市営地下鉄3号線の新百合ヶ丘駅延伸への期待の高さがうかがえる。



⑦道路網の整備

- 市全体では、【重要である】の割合は79.1%。
- 居住区別に見ると、【重要である】は麻生区が82.8%と最も高く、中原区・宮前区・多摩区でも8割を超えている。

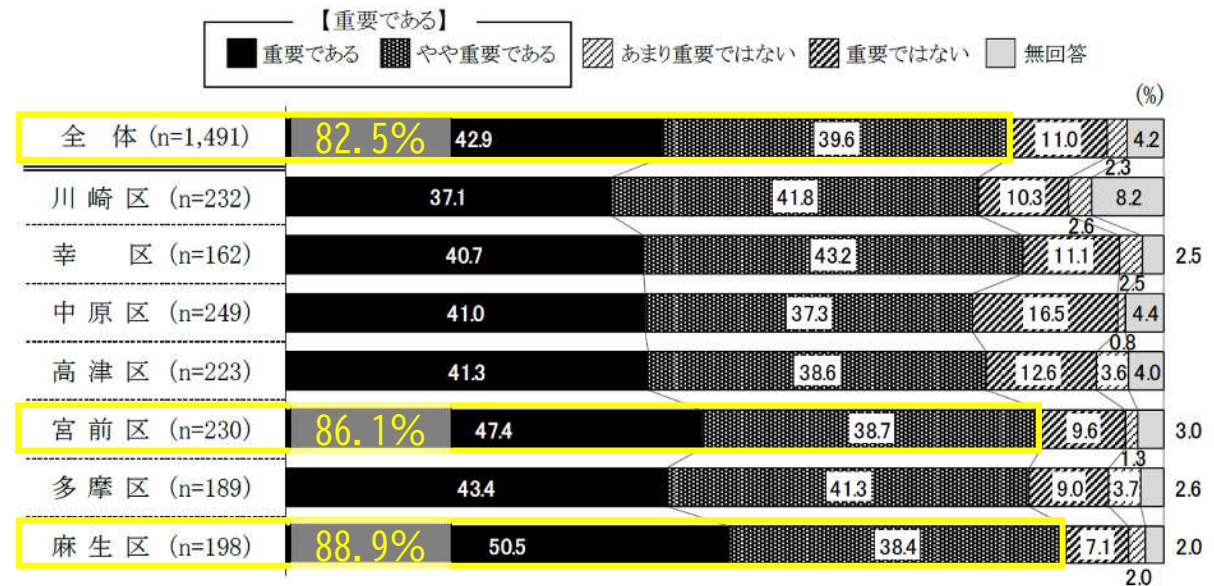


※交通施策の番号（①②③…）は、【重要である】の割合が高い政策から順に付番したもの。

市民が重要と考える市の交通政策（居住区別結果） その5

⑤交差点などの渋滞対策

- ・市全体では、【重要である】の割合は82.5%。
- ・居住区別に見ると、【重要である】が特に高いのは麻生区（88.9%）と宮前区（86.1%）であり、これは自動車の利用頻度が高い市民の割合が高い区と一致している。



⑩公共空間等を活用した快適で賑わいのある歩行空間の整備

- ・市全体では、【重要である】の割合は71.9%。
- ・居住区別に見ると、【重要である】は幸区（80.2%）・多摩区（75.1%）で特に高い。

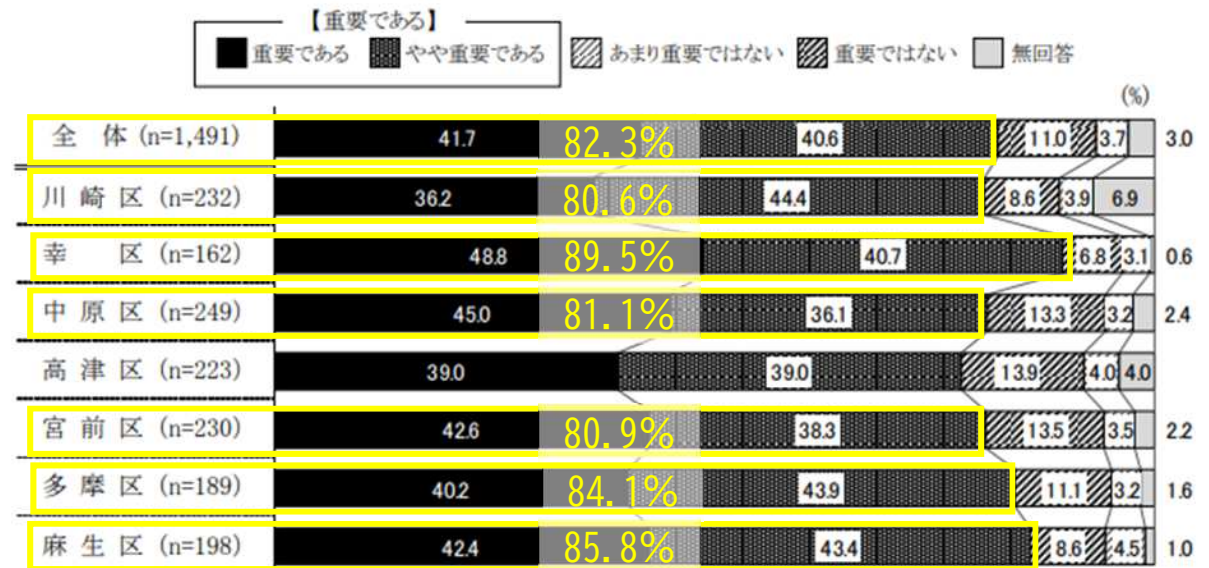


※交通施策の番号（①②③…）は、【重要である】の割合が高い政策から順に付番したものの。

市民が重要と考える市の交通政策（居住区別結果） その6

⑥ 高齢者、障害者、子育て世帯、外国人など誰にとっても利用しやすいユニバーサルデザインのまちづくりの推

- ・市全体では、【重要である】の割合は82.3%。
- ・居住区別に見ると、【重要である】が高津区を除いた6区で8割を超えている。



※交通施策の番号（①②③…）は、【重要である】の割合が高い政策から順に付番したもの。